

宇都宮市
男女共同参画
情報誌

ぱーとなーしいぷ

地震

Earthquake

水害

Flood disaster



崩落した
赤堀川の岡橋



堤防の一部が
破損した田川

台風

Typhoon

災害砂

Sediment disaster



板戸町で発生した
土砂崩れ



特集

男女共同参画の 視点からの防災

寄稿

「男性だからできること、女性だから気づくこと」

フリーアナウンサー・気象予報士・防災士 福嶋 真理子さん

きらり大賞受賞企業の取組

2017 | Vol.

34

災害はいつ起きるか分かりません

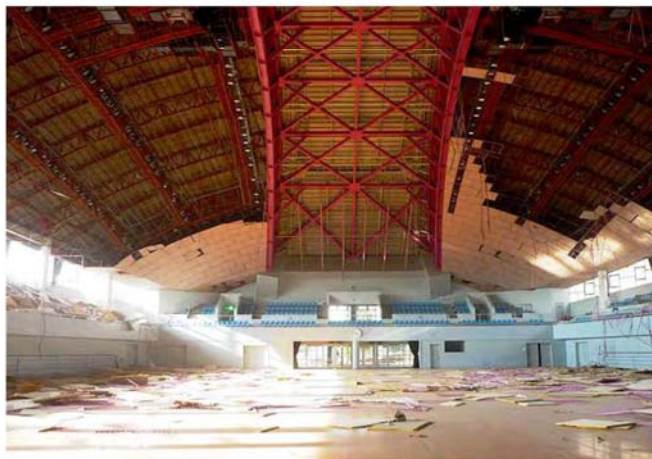
災害はいつ起きるか分からないため、日頃から備えておくことが重要です。皆様の記憶に新しい、近年発生した大規模災害を振り返ってみましょう。

東日本大震災



ピーク時

避難所：21か所
避難者：1,202人



▲地震により天井が崩落した清原体育館

平成23年3月11日に発生した大規模地震により、東北地方を中心に未曾有の災害が発生しました。

宇都宮市では震度6強の激しい揺れを観測しました。地震直後から市内全域で長時間の停電が起きたほか、市の東部を中心に建物が壊れるなどの被害が発生しました。

関東・東北豪雨



ピーク時

避難所：12か所
避難者：122人



▲土砂流入や倒木により分断された道路

平成27年9月に発生した台風18号により、関東から東北地方にかけて記録的な大雨が降り、土砂災害・浸水・河川の氾濫など甚大な被害が発生しました。

宇都宮市においても姿川や田川の堤防の一部破損や土砂崩れにより建物の全壊などの被害が発生しました。

寄稿

「男性だからできること、女性だから気づくこと」

「自分の命は自分で守る・自分たちの命は自分たちで守る」

防災を考える時に、最終的にたどり着くのは「自分の命は自分で守る」ということ。いわゆる「自助」です。自分の命を自分で守ることができたなら、その次は「自分たちの命は自分たちで守る」ということ、つまり「共助」です。災害が発生してすぐに、消防や警察や自衛隊が助けに来てくれるとは限りません。なぜならば、そうした「公助」にあたる施設や人々も、同じように被災している可能性が高いからです。だからこそ「自助・共助」が、非常に重要になります。

「それぞれの視点」

講演会などにお呼び頂いた際、私が必要発言するのが「次回は、ぜひ奥様やお嬢様をお連れ下さいね」ということ。防災シンポジウム等で客席を見渡すと、その多くが男性です。「災害が発生した際、力仕事が多いから」「いざという時のリーダーシップは男性がとる」という考えが、なんとなく存在するからなのかもしれません。が、本当にそれで良いのでしょうか。確

かに、力仕事は男性の方が得意かもしれません。でも避難所には妊婦さんがいるかもしれない、授乳が必要なお子さんがいるかもしれない、着替える場所は？食事の用意は？決して、女性の力だけが必要なわけではありませんが、男性の力だけが必要なのでもありません。それぞれの視点だからこそ気づくことがたくさんあります。互いの得意分野を持ち寄って、自分たちで生きていかなければならない時、男性も女性もなく、人の力が必要なのです。

「想定外を想定する」

災害が発生した時、「まさかこんなことになるとは思わなかった」という言葉をよく聞きます。災害は、いつでも起こるかわかりません。災害をなくすことも不可能です。でも、ある程度予測し、それに備え、被害を少なくすることは可能です。万全に備えておき、もし何も起きなかったら「何もなくてよかったね」と笑顔で言えるようでありたい。そのためにも、私たちは普段からできる限り災害を想定し、防災について考え、準備しておかなければなりません。男性でも女性でもない、私たち一人一人が、その気持ちを忘れずにいたものです。



Profile

[プロフィール]

ふくしま まりこ
福嶋 真理子さん

フリーアナウンサー・気象予報士・防災士

宇都宮市出身。元CRT栃木放送アナウンサー。現在はフリーアナウンサーとして、とちぎテレビ「とちテレニュースLIFE」のキャスターを務めるほか、栃木放送の番組などに出演。また日本気象協会の気象予報士として文化放送などにも出演中。栃木県防災会議委員、NPO法人栃木県防災士会理事。

災害発生

避難所生活をイメージしてみよう

▶男性ばかりの防災訓練で本当に大丈夫？ 昼夜で異なる人口構成

ある市では、夜間はそれほど男女の人数に差がないにも関わらず、日中は女性の半分も男性がいないことがわかりました。女性ばかりの日中に災害が起きたらどうなるでしょう？
出典：内閣府男女共同参画局作成データより

▶防災に関する意思決定の場は男性が中心 市区町村防災会議の委員に占める男女の割合は、男性92.0%に対し女性8.0%と全体の1割にも届いていません。

出典：内閣府男女共同参画局調べ（平成28年4月時点）



3

女性用品は女性から配るよう配慮しましょう

女性でも外仕事を手伝ってみますよ

炊き出しや掃除は男女で当番にしてみましょう

要望は女性で聞き取りをして整理してみますよ



男女が協力して改善案を出し合いました

1

訓練通り避難所を設営しましょう

訓練通りに男性は外仕事や物資管理、女性は炊き出しを担当してもらいましょう

食料や毛布を配れば大丈夫でしょう



男性だけで防災訓練をしていたら…

4

過ごしやすくなったね！

今後もお互いに協力して活動しましょう！



女性の視点も入り、避難所生活が改善しました！

2

責任者として要望に応えきれない…

女性だけの炊き出しや掃除が大変…

外仕事ばかりで疲れた…

女性用品が受け取りにくい…



男女ともに苦勞が多く疲れてしまいました



▶男性に増える飲酒量

震災前後の成人の飲酒量は女性が3%台の増加率であるのに対し、男性は7～12%と高くなっています。
出典：内閣府「平成24年度版男女共同参画白書」

▶睡眠障がい悩む女性

ある市の調査では震災後睡眠障がい強く疑われる方は、男性が32.4%に対し、女性が50.2%となっています。
出典：内閣府「平成24年度版男女共同参画白書」

避難所では日常とは異なる不自由な生活を強いられ、男性も女性も様々な苦勞がうまれます。特に、固定的な性別役割分担意識（男性は外で働き、女性は家を守るべきであるという考え方）が現れるのが避難所生活です。男性は強くあるべきという考えに捕われ、弱音を吐く事もできずストレスを抱え込みがちに。女性は家事の延長として炊き出しや掃除を任せられるうえ、男性リーダーに意見を言うこともできず我慢を強いられます。みんなの負担を少しでも軽減していくために、女性を含めた多様な視点からの運営がカギとなります。





女性の視点を活かした避難所運営

女性の視点を活かすことで必要な支援がうまくいった例をご紹介します！

支援物資の管理・配布を女性に

全国から届く支援物資。トラブル回避のため、管理担当は全員男性。しかし、女性特有の物資は男性からは受け取りにくい。そもそも何が必要なのかは男性だけだとわからない。その結果、物資はあるのに必要な人に届かないという事態に。多くの人が共同で生活する避難所では、管理する人が多様化することで避難者のニーズが把握できることも多くあるのです。



子どもの預け合い

被災の混乱がある程度落ち着くと、気になるのは自宅の様子。見に行きたいけれど、小さなお子さんがいるお母さんには難しく、不安やストレスがつのる毎日。そんな時、同じ境遇の人達が避難所内にグループを作り、お互いに子どもの預け合いを始めました。子どもを預けていられる時間を利用し、自宅の片づけや各種申請手続きもできるように。災害時、子どもの預け先や学校までの送り迎えに苦勞する保護者は多いのです。



出典：「災害支援にジェンダーの視点を！こんな支援が欲しかった！

現場に学ぶ、女性と多様なニーズに配慮した災害支援事例集」／減災と男女共同参画 研修推進センター

これまでの防災計画や防災訓練は、作り手も実施する人もほとんどが男性であり、女性の視点が入りにくくなっていることが問題でした。もちろん災害の現場で男性の力に頼ることはありますが、男性・女性・高齢者・子ども・障がい者・外国籍等の総ての人に等しく、無条件で災害は起こります。そして、様々な事情を抱えた人が訪れる避難所の運営は、男性のみではなく女性を含めた多様な視点が必要になります。実際にこれまでの事例を見ても、女性の視点を取り入れ解決した例は多くあります。

それでは次のページで防災の現場で女性の視点を取り入れるために普段からできることを考えてみましょう。

男女共同参画の視点

を取り入れるために



防災訓練を活用してみる

男性が中心になりがちな防災訓練では、被災時も男性中心の運営になり、女性を含めた色々な意見が通りにくくなってしまいます。やはり、訓練から女性も参加し意見を言うていくことが必要です。それに加え、訓練時に男女が一緒にできることを増やし、これまで男性がやっていた作業を出来る範囲で女性がやってみる、女性が担当していた炊き出しを男性もやってみるなど、作業を交換してみることもいいかもしれません。避難所ではどのような男女比になるかは誰にもわかりませんので、そのような事前準備をしておくことが重要です。



家族防災会議をひらこう

災害時に必要なものは男性と女性で異なります。そして、それぞれの不自由さや困難さがあります。そういった違いについて、家族で話し合ってみましょう。また平日の昼に被災したら？夜だったら？休日だったら？家族の行動パターンを考え、いつ災害が起きてもあわてずに行動できる準備をしていくことが必要です。年に1度は家族全員で話し合いを。また、離れた家族とも確認をすることがいざという時の備えです。



防災について
もっと
知りたい方に…

■宇都宮市ホームページ「防災・(災害)」

<http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/kurashi/anshin/bosai/index.html>

宇都宮市内のハザードマップや災害時の備え等について紹介されており、日頃からの防災の準備に役立ちます。

■男女共同参画の視点で取り組む防災ハンドブック(栃木県)

<http://www.parti.jp/etc/bousai.html>

「男女共同参画の視点で取り組む防災ハンドブック」が公開されています。県民向け・支援者向けがあり、地域での研修や、災害時の避難所運営などに活用できます。





男女共同参画推進事業者表彰

「きらり大賞」平成28年度 受賞事業者



本市では、男女共同参画社会の実現を目指すため、男女の性別にかかわらず、個性と能力を発揮できる、働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる市内事業者を称え、表彰しています。

中村土建 株式会社

事業内容 建設業

主な取組

★女性の働きやすい職場環境づくり

男女別に分けた仮設トイレ設置や、女性用トイレに鏡・洗面台を設置するなど、男性の多い職場で働く女性に配慮した取り組みを実施

★休暇取得の意欲促進

管理職が従業員やその家族の誕生日等を把握し、特別な日の休暇を推進することにより、休暇取得の意欲を促進

★業務の効率化、多様な働き方に向けたIT化の検討

IT化の推進により、業務の効率化を図るとともに、在宅ワーク等の多様な働き方の実現や、今後の女性の職域拡大のため、IT業務改善委員会を設置



▲現場監督として働く女性従業員

シーデーピージャパン 株式会社

事業内容 サービス業(人材派遣業)

主な取組

★育児休業取得後の職場復帰促進

従業員の家庭環境や要望に応じた育児休業の取得、育児休業後の柔軟な勤務体制づくりにより、女性従業員の育児休業取得率100%と全員の復職を実現

★女性の採用拡大とキャリアアップ促進

管理職候補、女性従業員の個別育成や研修を実施。役員、面接官に対する研修マニュアル作成、管理職向け研修を実施

★栃木県内初認定

「プラチナくるみん」

厚生労働省から次世代育成支援対策に積極的に取り組む企業として認定

「えるぼしトリプル」

厚生労働省から女性の活躍推進に積極的に取り組む企業として認定



▲社内の仕事風景

ぱーとなーしっぴ

Vol. 34 【2017年10月】

編集
発行

宇都宮市 市民まちづくり部
男女共同参画課
男女共同参画推進センター

住所: 〒320-0845 宇都宮市明保野町7番1号
TEL: 028(636)4075 FAX: 028(636)4079
E-mail: u18100201@city.utsunomiya.tochigi.jp

「災害と結婚」

「絆婚(きずなこん)」「震災婚」という言葉を耳にしたことがあるでしょうか。平成23年3月11日に起きた東日本大震災の後、多くのカップルが結婚したことで、先ほどの言葉が話題になりました。

震災という未曾有の事態のなか、計り知れない不安と恐怖を抱え、「誰かと一緒にいたい」という思いが強まったことが、結婚を後押ししたと考えられます。

結婚を決めたきっかけは人それぞれですが、災害の時に自分を気遣ってくれたことで、相手との関係を見直して結婚を決めたなど、相手の思いやりで結婚を決意したケースも見受けられます。日頃希薄になりがちな人と人との絆を深めることも、結婚に向けた第一歩になるのではないのでしょうか。

Sunshine 輝く女性 Vol.6

認定 NPO 法人
ウイメンズハウスとちぎ 理事長

中村 明美 氏

本市では、男女共同参画社会に向けて、様々な分野で女性のチャレンジを応援しています。今回は、20年以上にわたり、DV被害者支援などにご尽力され、その功績により内閣総理大臣表彰を受賞された認定特定NPO法人 ウイメンズハウスとちぎ理事長 中村明美さんからお話を伺いました。

Q1 NPO法人を設立したきっかけは何ですか？

A 女性の人権問題に取り組んできた中で、県の婦人相談所の相談員を務めていたのですが、その活動の中で行政だけでは支援しきれない人たちがいると分かり、そういった人たちも支援したいと思い設立しました。

Q2 活動をする中で、苦勞していること、良かったことを教えてください。

A 質の良い支援を行うための運営資金については苦勞しますね。私たちの活動は寄付金や補助金で運営しているのですが、外国に比べ、DV被害者支援に対する社会全体の理解がまだ浸透していないためか、寄付金が集まりにくい現状にあると思います。それでも、人を支援する私たちの活動を支えてくださる方々がいることは大変嬉しいですね。

Q3 女性が地域や職場で活躍するために大切なことは何だと思いますか？

A 女性が外で活躍するには家庭の中の平等なパートナーシップが大切ですね。「男は仕事、女は家庭」というような性別役割分担意識が根強いと思います。女性が社会に出るようになって、女性だけが変わらずに家事や育児をしています。女性の負担ばかりが大きくなってしまっていますので、この負担を軽減しなければなりません。

Q4 色々なことにチャレンジをする女性に一言お願いします。

A 女性であるから、ここまで出来ればいい、この地位までしかいけないと、無意識のうちに自分で考えていませんか。性別という枠にとらわれずに頑張ってください！



▲セミナーの講師を務める中村さん

Profile [プロフィール]

- 平成8年ウイメンズハウスとちぎを立ち上げ、以来20年間代表として相談・支援にあたる。
- DV研修会講師を務め、啓発資料やDVDの制作も手掛けている。
- 平成29年6月、男女共同参画社会づくり功労者に選ばれ、内閣総理大臣表彰を受けた。
- 全国シェルターネット理事、フェミニストカウンセリングアドヴォケーター。



ウイメンズ
ハウスとちぎ
制作の啓発用
DVD

長年にわたって女性問題に取り組んでこられた中村さんからは、活動に対する誇りと熱意が伝わってきました。

これからも、ますますご活躍ください！

ありがとうございました！

